目 次

第 | 部:理論編

はじめに

序へ (24)

第1章	グローバル協力論とは何か? ———	- ₂
	1 グローバル協力論とは何か? (2) 2 国際関係論から国際開発 論、そして NGO・ネットワーク研究へ (4) 3 グローバル政治経済 論からグローバル・ガヴァナンス論、そしてグローバル公共政策論へ (9) 4 グローバル協力論の特徴、ならびに今後の課題と展望 (12)	
第2章	国際社会はいかに形成されてきたのか? ——— ——大航海時代から現代までの国際秩序の系譜	14
	1 国際政治は自然状態か (14) 2 アナーキカル・ソサイエティと 1 アの国際秩序 (15) 3 分割される世界 (18) 4 戦争が管理さ	

1 グローバル・ガヴァナンスの重要性と分析手法 (27) 2 政府、市場、市民社会、ガヴァナンス (27) 3 グローバル三項モデルの提示 (30) 4 グローバル・ガヴァナンスの内実を探る (34)

れる空間とラインの彼方(21) 5 国際社会の拡大——現代の国際秩

第3章 地球社会はいかに統治されているのか? — 27

グローバル・ガヴァナンスを理解する

第Ⅱ部:テーマ編

1 平和と友好の虚と実 (40) 2 主権平等と国際平和 (41) 3

――国際平和と人間の安全保障の狭間で

第4章 国際平和とは何か? ——

	国際平和の背後で (44) 4 なぜ人道的危機が見過ごされたのか (47)	
第5章	地球環境問題は解決できるか? ——地球温暖化交渉を中心に 1 地球環境問題とは何か (52) 2 地球温暖化の科学 (53) 3 地球温暖化の政治 (55) 4 地球温暖化の経済——環境保護を経済の仕組みに組み込んだ温暖化の国際条約 (59) 5 地球温暖化問題の解決に向けて (60) 6 温暖化問題の解決には人類の知恵を絞って全員参加が求められる (62)	54
第6章	世界の貧困問題をいかに解決できるのか? ——国際協力の限界、できること 1 貧困削減に向けた国際協力——課題対応の不十分さ(64) 2 資本主義のもたらす社会矛盾——「分裂した共同体」の広まり(68) 3 「分裂なき共同体」再生の国際協力——「脱成長」論のできること(71) 4 今後の展望——「脱成長」論の限界、国際協力のできること(73)	62
	第Ⅲ部:地域研究編	
第7章	アジアの経済は「発展」しているのか? 地理学・地域研究からのアプローチ 1 アジアの経済成長 (78) 2 垂直的な国際分業 (79) 3 水平的な国際分業 (82) 4 香港の経済発展 (84) 5 珠江デルタ地域	78

の経済発展(86) 6	グローバル化とこ	アジアの地域性	(88)
-------------	----------	---------	------

第8章 アフリカ人の「選択の自由」を尊重する援助とは? — 89

――元子ども兵の社会復帰支援から潜在能力アプローチの可能性を探る

1 アフリカの人々の主体的な意思決定をどこまで尊重できるのか? (89) 2 ウガンダ北部の元子ども兵の抱える課題 (90) 3 潜在能力アプローチの有用性 (91) 4 元子ども兵は「自律した主体」といえるのか? (93) 5 自己決定に基づく潜在能力アプローチのジレンマ (94) 6 潜在能力アプローチの適用可能性を高めるための視点 (96)

第9章 なぜ軍隊なしに平和が維持できるのか? — 102

――積極的非武装中立平和外交を進めるコスタリカの挑戦

1 「軍隊をすてた国」(102) 2 米国さえも利用するしたたかな非 武装外交(104) 3 米国との利害対立と女性を中心とした積極的非 武装中立外交(107) 4 非武装を中心とした攻められない国づくり (110)

第Ⅳ部:公共政策編

第10章 フェアトレードで世界は変えられるか? — 116 — フェアトレードタウン運動への展開

1 フェアトレードのインパクト―― "私" の生き方と "私たち" の生き方 ($_{116}$) 2 フェアトレードの仕組みとは? ($_{118}$) 3 途上国の生産者への効果・インパクト ($_{120}$) 4 世界に広がるフェアトレードタウン ($_{122}$) 5 むすびにかえて――リローカリゼーション (地域回帰) の時代へ ($_{127}$)

第11章 地球規模問題を一気に解決する処方箋?! —— 129 ——グローバル・タックスの可能性

1 地球規模課題の原因とグローバル公共政策の必要性 (129) 2 グローバル・タックスの可能性 (129) 3 先駆けとしての航空券連帯税と注目される金融取引税 (133) 4 リーディング・グループ総

第V部:アクター編

第 12 章	国際機関および大学は地球問題の解決のために
	何をしているのか? — — — — — — — — — — — — — — — — — — —

――情報通信技術と社会開発の融合を事例として

1 国連ミレニアム開発目標と現状 (142) 2 ICT の発展における 社会開発への貢献 (145) 3 教育開発と ICT (146) 4 社会開発 における ICT の導入——世界遺産地域の持続的開発のための ICT の応 用 (140) 5 情報通信技術を社会開発に活かすための留意点 (154)

第13章 地球環境ガヴァナンスにおける政府の役割は いかなるものか? ---

---気候変動問題の場合

1 地球環境問題の特徴 (156) 2 気候変動問題の挑戦 (156) 3 気候変動問題における主要なアクターと政府に期待される役割(157) 4 政府の役割(1)----国際交渉(158) 5 政府の役割(2)----国内に おける気候変動対策のための政策介入(162) 6 政府の役割――今 後の課題 (166)

第14章 企業を変える企業?! ——進化する CSR とその課題 —— 169

1 社会変革ヴィジョンを柱にクレアン起業 (16g) 2 環境・CSR レポーティング事業が本格的にスタート (170) 3 CSR コンサル ティングへのステップ(171) 4 いま求められるライフスタイルの 見直しと新発想のイノベーション (175) 5 CSR の生まれた背景と これからの世界の潮流(177) 6 クレアンの企業理念とバックキャ スティング (179)

第15章 NGO は世界を救えるか? -

-----国際保健 NGO の経験から

1 「ミレニアム開発目標 | をめぐる市民キャンペーン (182) 2 な ぜ保健の課題が「ミレニアム開発目標 | の中で重要になったのか(185)

142

156

3 国際的なトレンドをいかに引き寄せるかが勝負を決める (189) 4 国づくりのための支援としての「ミレニアム開発目標」 (190) 5 「ポスト MDGs」はどうなるのか (191) 6 人類にとって貴重な15年間 = MDGs (193)

第16章 共振する社会運動は、世界社会フォーラムに 何をもたらすのか?

. . . .

――オルタ・グローバリゼーション運動とアラブ民衆革命を中心に

1 共振する社会運動 (195)2 オルタ・グローバリゼーション運動としての WSF (196)3 民衆による「怒りの連鎖」運動 (199)4 2つの社会運動の交差と WSF への含意 (205)

あとがき